

認知症を予防しよう

～早期発見と治療が大切～

認知症は脳の病気です

年を取れば誰でももの忘れなどをするようになりますが、認知症は老化ではなく、脳の病気です。記憶や思考などの能力が少しずつ低下して、日々の生活に支障が出るようになります。原因となる脳の病気や障害が出る脳の部位などによってさまざまな種類や症状があります。

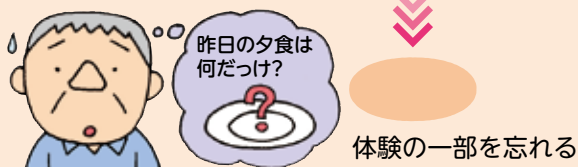


加齢によるもの忘れと認知症の違い

加齢などによるもの忘れと認知症によるもの忘れは違います。たとえば、食事の内容を思い出せないといった体験の一部を忘れるのは普通にみられるもの忘れですが、食べたこと自体を忘れてしまう場合は認知症が疑われます。

加齢などによるもの忘れ

記憶の帯



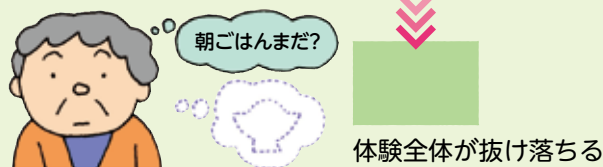
体験の一部を忘れる

- 体験や出来事の一部を忘れる。
- ヒントがあれば、忘れた部分を思い出すことができる。
- もの忘れをしている自覚がある。
- 人や場所までわからなくなることはない。

日常生活に大きな支障は出ない

認知症によるもの忘れ

記憶の帯



体験全体が抜け落ちる

- 体験や出来事のすべてを忘れてしまう。
- ヒントがあっても思い出せない。
- もの忘れをしている自覚がない。
- もの忘れがひんぱんに起こる。
- 人や場所までわからなくなることがある。

日常生活に支障が出る

どうして早期発見・早期治療が大事なの？

治る認知症があります

早く治療すれば治るタイプの認知症があります。また認知症に似た病気を見逃さないことも大切です。

進行を緩やかにできる認知症があります

アルツハイマー型認知症や血管性認知症は、早期から薬を服用すると進行を緩やかにできる場合があります。

適切な対応で症状がやわらぎます

症状に応じた適切なケアによって症状が緩和したり、落ち着いたりします。